

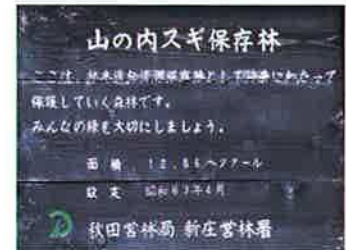
山ノ内黒杉 〈神代杉〉 (やまのうちくろすぎ じんだいすぎ)

最上郡戸沢村山ノ内

山ノ内黒杉は、最上川峡谷の左岸に自生する古来より土湯杉、仙人杉、山ノ内杉と呼ばれてきた杉の一本である。樹齢は、義経が平泉に落ち延びる文治3年、この地を通過した時には同様な景色であったといわれることから、ゆうに一千年を越えると推定される。

樹形は、タコ足状に分岐し杉とは思われない特異な形状をしており、一つの根から二本株立ちし、太い幹周りは11.5mで、二本合わせて約20mあり、樹高は25mである。
〔山形県森林協会〕

(案内略図)



神代杉 (村の木)
最上川峡谷地帯に自生する杉で、古来より土湯杉、仙人杉、山ノ内杉と呼ばれてきた樹令一千年はゆうに越えていると思われる老木が多い。樹形は雪害風害など色々な要因が重なってタコ足状に分岐し、杉とは思われない特異な形状をしているので有名である。
戸沢村文化財保護委員会



【森林やまがた98号(2005年7月)記載】